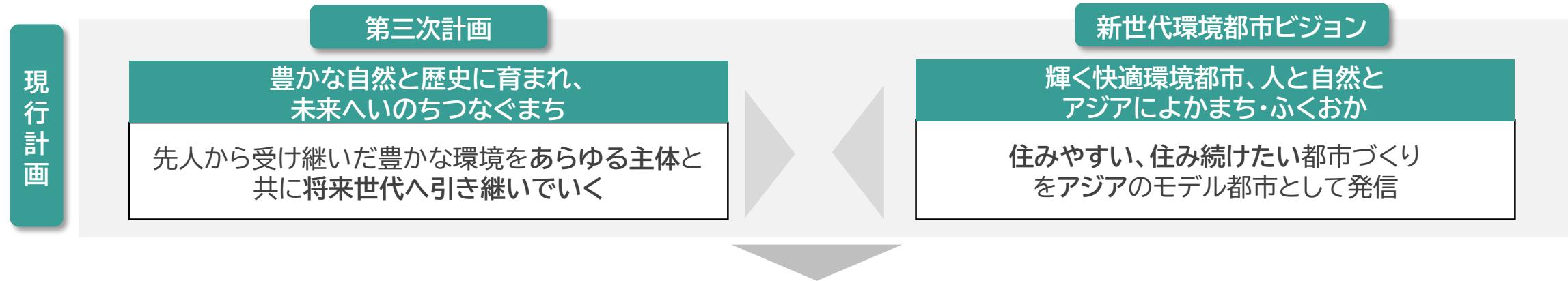


第四次計画のめざすまちの姿（方向性）

現行計画の福岡市の特性を踏まえた普遍的なまちの姿を描く理念は変えることなく、
上位計画や社会情勢の変化も踏まえ、将来のありたい姿を定める



みんなでめざすまちの姿（2050年の環境都市像）

人・まち・自然が調和し、心豊かに住み続けられるアジアのモデル都市

<考え方>

- 福岡市は恵まれた自然と、まちやそこに住む人々が調和し、アジアをはじめ世界中から様々な人や物を惹きつけ、賑わいと活気ある都市として発展してきた。
- 環境危機が顕在化する中、将来にわたり持続的に発展していくためには、自然資本を基盤として、環境・経済・社会の好循環を創り出すことが重要。
- よって、環境価値を高めてまちの成長へとつなげ、都市でありながら身近に自然を感じ、人が生き生きと暮らせる快適な環境に磨きをかけ、心豊かな暮らし(Well-being)を実現するとともに、アジア諸国をはじめ世界の都市環境の向上に引き続き貢献しながら、住み続けられるまちを将来世代へ引き継いでいく。

<修正のポイント>（※委員意見を踏まえたもの）

- 10月の環境審議会にて提示した、案1「都市環境と自然が調和した、心豊かに暮らせるアジアのモデル都市」をベースとして、案2「環境・経済・社会が好循環した、誰もが住み続けたいまち」をミックス。
- 案1 冒頭の「都市」と最後の「都市」の重複を避けるとともに、現行計画(新世代環境都市ビジョン)と同様に、都市に暮らす「人」にも着目し、「人・まち・自然」という表現に変更。その人々が国の第六次環境基本計画の理念である「Well-being」の状態になることを目指し、「心豊かに住み続けられる」とした。
- 「経済」や「循環」、「発展」などのキーワードは<考え方>及び行動指針に記載。
- 「アジア」は、地理的・歴史的に深いつながりを有し、福岡市基本構想にも掲げているキーワードであり、「世界」の視点は<考え方>に記載。